

想像力のスイッチを入れよう

下村 健一 文
タケウマ 絵

文章の構成

◇ 初め

○ 第一段落 — 第六段落

- ・「想像力のスイッチ」の必要性

◇ 中

○ 第七段落 — 第十四段落

- ・「想像力のスイッチ」を入れるときに大切なこと

◇ 終わり

○ 第十五段落 — 第十六段落

- ・筆者の主張

想像力のスイッチを入れよう

下村 健一 文
タケウマ 絵

内容（初め）

【第一段落 — 第三段落】

◇マラソン大会（例①）

- ・順位が五位も下がった。
- ・タイムがちぢまった。
- ・同じ出来事でも、発信する内容がちがってくる。

○要約

同じ出来事でも、何を大事と思うかによって、発信する内容がちがってくる。

内容（初め）

【第四段落】

◇メディア

- ・世の中の情報を得る手段
- ・テレビ、インターネット、新聞など

◇発信される情報

- ・事実の全てを伝えることはできない。
- ・大事だと思う側面を切り取って、情報を伝えている。

○要約

メディアから発信される情報は、事実の全てではなく、側面を切り取って伝えられる。

内容（初め）

【第五段落 — 第六段落】

◇図形の例（例②）

- ・ 図①：円の右半分
- ・ 図②：四角の左半分
- ・ 図③：図①図②の全体図
- ・ 切り取られた情報から全体を判断したことに
よる思い込み。

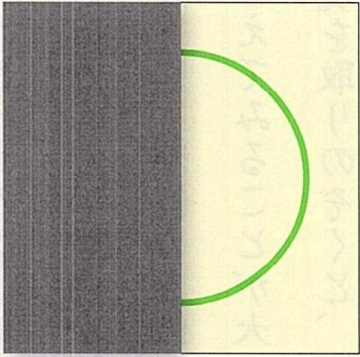
◇「想像力のスイッチ」

- ・ 思い込みを減らす。

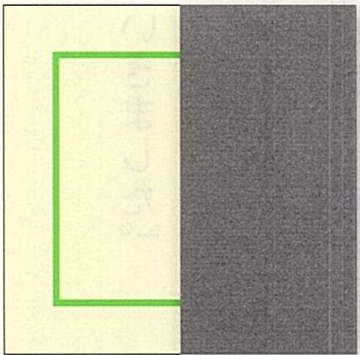
○要約

切り取られた情報だけから全体を判断する思い込みを減らすため、頭の中で「想像力のスイッチ」を入れることが大切。

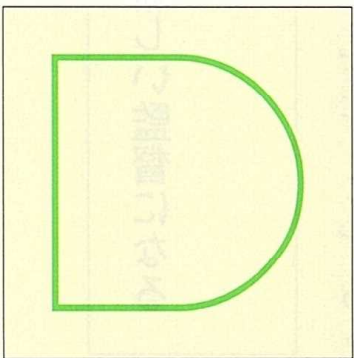
図①



図②



図③



内容（中）

【第七段落 — 第八段落】

◇報道の例（例③）

- ・サッカーの人気チームで監督が辞任することになり、Aさんが新しい監督になるのではないかと注目が集まっている。

◇レポート（想像力のスイッチ①）

- ・「Aさんは、報道陣をさけるためか、うら口から逃げるように出ていきました。」
- ・印象が混じっている可能性がある。
- ・想像力を働かせることが大切。
- ・『事実かな、印象かな。』（想像力のスイッチ①）

○要約

印象が混じっている可能性のある表現を、想像力を働かせながら考えることが大切。

内容（中）

【第九段落 — 第十段落】

◇新聞記事（想像力のスイッチ②）

- ・「Aさんは、来月から予定していた外国での仕事を、最近、キャンセルした。」
- ・印象が混じっていない。
- ・『他の見方もないかな。』（想像力のスイッチ②）

○要約

印象が混じっていない事実も、他の見方もありうることに気づけば、決め手にはならない。

内容（中）

【第十一段落】

◇伝えられていないこと（想像力のスイッチ③）

- ・メディアは、出来事の特定の部分を伝えている。
- ・伝えられていないことについても想像力を働かせる。
- ・『何がかくれているかな。（想像力のスイッチ③）

○要約

メディアは、出来事の特定の部分を伝えているため、伝えていないことについて、想像力を働かせることが大切。

内容（中）

【第十二段落】

◇ 結論を急がない（想像力のスイッチ④）

- ・ 少しずつ事実の形が分かる。
- ・ 『まだ分からないよね。』（想像力のスイッチ④）

○ 要約

事実の形は少しずつ分かるため、結論を急がないことがいちばん大切。

内容（中）

【第十三段落 — 第十四段落】

◇ 結果

- ・ Aさんとは別の人が監督になった。
- ・ 思いこみや推測によって、だれかが不利益を受けることがある。

○ 要約

思いこみや推測によってだれかを苦しめたり、だれかが不利益を受けることがある。

内容（終わり）

【第十五段落 — 第十六段落】

◇筆者の主張

- ・ 思いこみを防ぐために、それぞれに努力が必要。
- ・ 情報を受け取る側の努力は、「想像力のスイッチ」を入れること。
- ・ 自分の想像力で判断できる人間になってほしい。

○要約

思いこみを防ぐためにはそれぞれの努力が必要で、情報を受け取る側は、「想像力のスイッチ」を入れ、自分の想像で判断できる人間になるべき。

